

1 日 時 平成30年8月28日（火） 13時30分～ 16時

2 場 所 横浜美術館 円形フォーラム

3 出席者 西田委員、丸山委員、村井委員

4 欠席者 高橋委員、吉本委員

5 傍聴者 なし

6 議事内容

<p>議題</p>	<p>1 平成29年度業務評価 2 横浜美術館第2期指定管理事業計画書第Ⅲ期4か年計画について（報告）</p>
<p>委員 意見 等</p>	<p>1 開会 (1) 定足数の確認 委員数5名のうち3名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 (2) 委員会の公開 非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜美術館指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。</p> <p>2 議題 (1) 「平成29年度業務評価」 ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価資料及び評価方法について説明があった。 イ 指定管理者業務実績及び自己評価について 指定管理者から、平成29年度業務報告及び自己評価について説明があった。 ウ 行政評価について 事務局から、行政評価について説明があった。 エ 指定管理者へのヒアリング（評価・改善点の説明） 各委員から指定管理者へのヒアリングを行い、評価できる点、課題と考えられる点の説明を行った。なお、欠席委員の評価・課題の意見は、事務局が代読した。</p> <p>「1 経営」について 《質疑》 (委員) 海外巡回展については当初から目標に定めているが、優先順位を検証し時点修正は必要だ。政策協働型の指定管理なので、指定管理者と行政が互いに議論しながら考えるべきだ。業務量も勘案し、その事業を直ちに実施すべきものかどうかは検討した方が良い。 (委員) 指定管理者も努力していると思うが、短期雇用を回すだけでは人が育たない。持続可能な体制を考えるうえで、人員確保は重要な課題であり、市と指定管理者で協議しながら取り組んでもらいたい。 (委員)</p>

海外発信（巡回展）が中期Ⅲ期に延期となったが、中期Ⅱ期の段階で、国際グループが編成されているので、その部門がどう活動するかが重要だ。

（指定管理者）

海外巡回展の国際会議に出席できる関係者が限られている中、横浜美術館として参加しているが、そういう場での顔つなぎはとても重要。情報交換の中で海外からも写真展などに関心を示してくれるケースもあり、中期Ⅲ期では、ぜひ海外巡回展を実現したいと考えている。

#### 《評価の説明》

##### 【評価できる点】

- ・「国際都市横浜の魅力をけん引する」という政策目標に対し、体制強化や多角的な観点でのトリエンナーレの取組、同会期中のIBA理事会・総会開催などによって達成できている。
- ・外部連携については、様々な相手との連携により、多様な事業展開がなされている。
- ・体制や職員の就業環境等も考慮しながら、役割を果たし続けてほしい。

##### 【課題と考えられる点】

- ・海外発信の取組は行われているが、巡回展の具体的成果に結びついていない。今後も精力的な活動を行って、実現に結び付けてほしい。

## 「2 事業①」について

### 《質疑》

（委員）

予算が限られた中で、若手作家の支援事業（NAP）の取組を拡充するには自主財源の確保が必要になってくるが、若手作家に焦点を当てたファンドレイズは実施できないのか。

（指定管理者）

これまでも、毎回のNAP事業に対して、企業からの協賛は受けている。例えば、29年度の対象は絵画作品だったので、制作につかう画材等の提供を受ける等協賛を得た。

### 《評価の説明》

##### 【評価できる点】

- ・それぞれの企画意図が明確で、性格の異なる企画展を並べたことで、幅広い市民、観客を呼び込んでおり、横浜美術館のカラーを打ち出す姿勢が感じられる。
- ・いずれの企画展も、アートと市民を繋いで楽しませる事業として評価できる。
- ・NAP事業の、スケジュール設定やサインの工夫が、入場者の増加に反映されている。
- ・過去には、展覧会の目標に対し実際の来場者が大幅に下がった例があったが、今回の展覧会は、目標設定に対し正確な集客数となっている。

##### 【課題と考えられる点】

- ・メディア共催展の東京集中傾向、NAP事業の財源確保は、美術館だけでは解決できない面がある。政策協働型の枠組みを活かした議論の中で、解決策を検討してほしい。
- ・引き続き大型展実施に向けた取組は継続してほしい一方で、横浜美術館ならではの取組を通して、来館者のすそ野を広げる努力も継続してほしい。

## 「2 事業②」について

### 《質疑》

（委員）

前橋、高知での巡回展は良い取組だが、横浜市は広く美術館に来られない人も多いと思う。そのような市民を対象とした小さな巡回展を市内で展開することも考えてはどうか。

(委員)

コレクションの「収集方針」に関する意見については、どのような考えか。

(指定管理者)

第2期指定期間の取組としては、トリエンナーレ作品を中心にプライマリープライスで収集することは方針としている。ただ、実際の収集にあたっては市の文化基金を使うことになるので、予算を含めた中期的な計画までは立てられない。収集作品については、美術館開設前に市が定めた「横浜市美術資料収集方針」に基づいて候補作品を提案している。特に、寄贈の場合、毎年相当数の話を受けるので、方針に照らし選別している。

(事務局)

美術作品の収集に関する経費は、市民からの寄附による「横浜市文化基金」を原資としている。横浜市としても毎年の予算で文化基金に積立を行っている。収集作品については、この委員会とは別の「美術資料収集審査委員会」に諮って収集方針に照らし妥当性を判断している。

(委員)

学芸員の研究環境整備を課題としているが、現状、十分なスペースが無いのか。

(指定管理者)

開館以来、展覧会ごとに膨大な資料が増えている。事務環境の整備は、今回の大規模改修でも検討課題と考えている。

(委員)

執務環境は他の施設も参考に研究した方が良い。

(委員)

執務環境の整備は、研究者だけでなく、ボランティアも同様に考えてほしい。

## 《評価の説明》

### 【評価できる点】

- ・企画展と緩やかに連携した展示など、コレクションの多面的な活用が行われた。
- ・キュレーションの工夫により、コレクション展入場者数の増加につながっている。
- ・トリエンナーレと連携した美術情報センター関連展示の取組により、館全体でアートを楽しめる環境が整備されつつある。

### 【課題と考えられる点】

- ・展覧会と連携した美術情報センターの展示は継続し、センターの存在意義をアピールすべき。
- ・大規模改修を機に、今後の収集方針を明確にする必要がある。

## 「2 事業③」について

### 《質疑》

(委員)

市民のアトリエのアーティスト連携事業は、横浜美術館だからこそできる取組で、“強み”といえる。当初から継続している講座を縮小してでも、“強み”を伸ばすことを検討する余地はあるのではないか。次期指定期間でもよいので、市民のアトリエの将来ビジョンについて、専門家も入れた検討会を開いてほしい。

(指定管理者)

企画展と連携したアーティストによる講座は、非常に人気が高い。今後市民のアトリエ機能をどう活用していくかは課題と認識しており、当面は、高齢福祉や環境創造との連携などを進めている。カルチャーセンターのような講座だけでなく、横浜美術館らしい活動を目指すと共に、横浜市民ギャラリー、市民ギャラリーあざみ野との役割分担も、リニューアル後の次の指定期間に向け、しっかり検討していきたい。

(委員)

今まで継続してきたものを変えていくのは勇気がいるが、見極めは必要。大規模改修の期間に検証してもらいたい。

#### 《評価の説明》

##### 【評価できる点】

- ・教育普及事業では、美術と市民との接点を創出した実績を高く評価する。
- ・各種の教育普及事業により「美術と市民を様々な糸口で繋ぐ」政策目標を実現している。

##### 【課題と考えられる点】

- ・予算や人員に限りがある中、これまでの実績や成果、課題を総括し、今一度、しっかりとビジョンを描いた取組を行ってほしい。
- ・教育普及事業に関する自主財源の確保も必要と考える。

### 「3 施設の運営事業」について

#### 《質疑》

(委員)

ビジターサービスについては、どのようなターゲットに開いていくのか、クリエイティブインクルージョンの観点からどう取組を整理するか、企業等のレセプション等を積極的に誘致し、コンベンションビューローとの連携を強化するのか等について、質問したい。

(指定管理者)

ターゲットについて、美術館はアクセスしやすく車いすの利用が多いが、誘導が必要な場合は、ボランティアスタッフが対応している。外国人も増えており、特に多かったトリエンナーレの際は、中国語や英語のできるボランティアを配置して対応した。今後どのように取り組むかについては、中期Ⅲ期の中でも検討していきたい。

レセプションは、要望があれば対応する形であり、現状広くPRしているわけではない。美術館で行うということもあり、展覧会の鑑賞とセットで場所の提供がきるよう、工夫はしている。

(委員)

ネーミングライツを施設全体でなく部屋ごとに行う、という提案についてはどう考えるか。

(事務局)

本市でも、ネーミングライツの導入事例はあるが、個々の部屋に対し個人名等で行う事例は、国内でもあまり聞いたことが無い。海外であれば、地元名士の名前を付けるような事例はあるかもしれないが、メリットデメリット、印象の問題もあるので、可能性があるかどうかも含め、今後の検討課題としたい。

(委員)

名古屋市の科学館で、プラネタリウムだけネーミングライツを導入した例がある。

(指定管理者)

海外では、ミスター&ミセス何某といった個人名のものがあるが、寄附のシステム自体が異な

る。今の日本の状況では、大規模改修に企業が大きなお金を出すことは考えにくい。コーポレートメンバーのような形を企業と膨らませることが必要。

(委員)

この大規模改修の機会に、支援体制については見直しをするまたとない機会なので、様々な観点から検討をする必要がある。文化基金がコレクション用なのであれば、事業用の基金を考えても良い。そういう話は、今しか検討のタイミングは無い。

(委員)

市民ファンドのような形もあるが、いくら集めたかが重要なのではなく、多くの人々が参加することが重要。

(事務局)

市全体の寄附事業としては、「サポーターズ寄附金」というふるさと納税制度を活用した枠組がある。また、美術館の“活動”に充てるというイメージであれば、市民局の「よこはま夢ファンド」に近いやり方も一つのアイデアかもしれない。ただ、現状検討ができていないので、今後の課題としたい。

(委員)

そういう仕組が一般に発信されていれば、市民も参加しやすいと思う。

#### 《評価の説明》

##### 【評価できる点】

- ・きめ細かい来館者サービスに積極的に取り組んでいる点を評価する。
- ・ファンレイジングについて、目標増数には至らなかったものの、継続して契約数を増やしている点は評価したい。

##### 【課題と考えられる点】

- ・大規模改修は、施設の課題を解決するだけでなく、運営面の課題の洗い出しや新たな仕組みを検討する好機といえる。
- ・大規模改修に向け、市側が主体となって施設と連携しながら予算確保に努めてほしい。

#### 「4～7その他の業務、人員計画、留意事項、収支計画」について

##### 《質疑》

(委員)

「政策協働型」による指定管理の観点からすると、今の業務評価のやり方は行政が指定管理者を第三者的に評価する「2次評価」だけになっており、政策協働の主体として行政が自己評価を行う「1次評価」が無い。自分としては当初、政策目標に対し、行政と指定管理者が積極的に協議しながら進めていくことを期待していたのだが、考え方が変わったのか、元から今の形で考えていたのか。

(事務局)

現在の美術館指定管理2期目から「政策協働型」を始めており、指定管理者の選定の際は、指定管理者と行政が協議しながら事業計画を定める形で進めてきた。運営にあたっては、「政策経営協議会」を設け、定期的に指定管理者と協議しながら進めている。2期目の評価方法は、今の形で当初から変わっていない。ただ、政策協働型が今の形で完成したということでもないのに、行政の自己評価方法については、今後も課題として検討していきたい。

(委員)

評価方法については、他の施設との兼ね合いもあると思うので、変えろとまでは言わないが、政策目標を達成するためにどのような課題があるのかという観点で、口頭でも市としての考えを伝えてもらえると良いと思う。

#### 《評価の説明》

##### 【評価できる点】

- ・財団内文化施設や市の事業と連携した運営が行われている。
- ・国際都市横浜の美術館として、専門性を発揮できる組織に成長している。

##### 【課題と考えられる点】

- ・持続可能な運営を目指すうえで自主財源を厚くすることは重要であり、外部資金導入策はさらに検討が必要である。

#### 「総括」について

#### 《評価の説明》

- ・経営、事業ともに、平成29年度の達成指標をクリアできている。
- ・「国際都市横浜の美の拠点」「次世代の美術振興」という横浜美術館の使命について、質の高い活動を継続的に展開している。
- ・大規模改修はハード面のみならず、事業内容や運営面でも「新・横浜美術館」をアピールする大きなチャンス。ぜひこれまでの実績を継承しつつ新しい基軸を打ち出してもらいたい。
- ・外部環境や内部環境を分析しビジョンを描いた上で、大規模改修前後の各段階の役割を明確にしながら、より価値ある美術館として発展してほしい。
- ・引き続き、質が高く持続可能な美術館経営を目指してもらいたい。

#### (2) 横浜美術館第2期指定管理事業計画書第Ⅲ期4か年計画について

事務局から、「横浜美術館第2期指定管理事業計画書第Ⅲ期4か年計画」の報告があった。

#### 《質疑》

(委員)

中期計画に大規模改修の影響のある計画を書けないというのは、大規模改修が行われない可能性もある、ということなのか。

(事務局)

もちろん行う前提で進めているが、現段階で予算や設計等が確定していないので、いつ何をやるということが、正式には言えない、という趣旨。

(委員)

大規模改修の休館中も、アウトリーチやコレクションの活用などについて、ぜひ、こまめに分かりやすく発信し続けてもらいたい。

議事は以上